



スイカ

芝山経済センター
営農指導員 能勢 浩一

農業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work technical diary



春レタス

山武経済センター
営農指導員 伊藤 統之



育苗

セルトレイへ播種する場合は、128穴または200穴を利用します。レタスは、発芽において光を必要とする作物ですので、覆土はごく浅くコートが見えるか見えないか程度が良いでしょう。

育苗初期の灌水は少量とし、天候に合わせて1日数回程度行い、乾かないようにします(トレイ当たり0.5リットル程度)。育苗後半では、べと病の発生が懸念されますので加湿にならないようにしてください。

発芽が間近となった頃に被覆材をはずし徒長させないようにします。

育苗日数は、おおよそ40〜50日程度となります。定植前は苗を順化させ、植え痛みを起させないようにします。

圃場の準備

圃場の条件としては、排水性・保水性が良い圃場を選択しましょう。

施肥量は、千葉県の施肥基準では、10ア当たり窒素24キ、リン酸24キ、加里24キとなっておりますが、土壌条件により異なりますので、加減してください。

レタスは、石灰(カルシウム)を要する作物ですので、不足と思われる圃場では、石灰資材の施用が必要です(土壌診断をお勧めします)。

播種・育苗

穂木の生育不良には、発芽の不着ろいや子葉の奇形、皮かぶりなどがあります。これらを回避するためには、種子にゆつくりと吸水させることが大切です。

播種量は、水稻育苗箱に300粒程度を目安にします。播種後、覆土を行い軽く鎮圧し、十分に灌水します。表面が乾かないように新聞紙で覆い、一昼夜は温度を上げずに寝かし、2日目から温度を25〜28℃に上げます。発芽してきたら新聞紙を取り、徐々に乾燥させながら温度を下げ、地温は約20℃、空間25℃を超えないように管理します。挿し床は早めに準備し、挿す一週間前には温度を上げ、ガス害を予防します。

施肥

肥料が多く草勢が強すぎると、栄養生長のまま生育が進み、生殖生長に転換できずに雌花が無い(花とび)状態や、雌花の質の低下の原因

トンネル栽培では、畝幅180センチ、トンネル支柱230センチ、ビニール210センチ、マルチは150センチ幅×4条×株間30センチ(マルチ5430)(8430)が用いられています。

定植

定植は低温期となりますので、土壌水分の多い場合、活着が悪くなります。本葉は3〜4枚、葉長は4〜6センチの苗を定植します。

定植後の管理

1〜2月は、外気温が低くなりますので、トンネル内にベタ掛けをします。

結球初期で、トンネル内の温度が高い場合、結球がしにくくなり、形状が悪くなります。また、結球後半では極度の低温には弱く、玉が凍傷となります。気温の変化に注意し換気を行ってください。

収穫

収穫の適期は、品種によっても異なりますが、3月で7〜10日、4月では5〜7日と、気温の上昇とともに、収穫適期の幅が短くなります。2〜3月の定植では、作付けを細かく行った方が良いでしょう。

病害虫防除

3月収穫の栽培では、加湿となった場

困となります。表①を参考に、適正施肥に努めてください。

栽培管理の要点

定植は、地温18℃を確保してから行ってください。節位(葉の枚数)を十分確保することが重要となりますので、着果位置は3番果で20節前後の雌花に交配します。

交配前に葉が硬化すると着果不良になります。また、トンネル内を冷さないように注意して管理します。また、急激な温度上昇によっても雌花が無いなどの高温障害になります。着果後も冷風を直接入れないように換気し、昼間は午前中を中心に温かく、午後は午前比に比べ温度を下げて樹を休めるなど、適切な温度管理が必要です。

表① 大玉スイカの施肥例 (10a当たり)

肥料名	施肥量
粒状セルカ	100kg
マルチサポート2号	60kg
苦土重焼燐	40kg
油粕	80kg
さんぶ西瓜ブリケット	200kg
CDUs555	20kg

合園核病、灰色かび病の発生に注意が必要です。

また、近年ではべと病の発生に留意すべきとの報告があります。べと病の発生は、気温7〜13℃、湿度90%の条件下で多発するといわれています。特にトンネル内の霧は、発生を助長しますので注意してください。

4月収穫以降での栽培は、腐敗病、軟腐病などの病害、アブラムシやナモグリバエの害虫に注意しましょう(写真①、②参照)。



写真① 腐敗病



写真② 軟腐病

土壌病害虫の確認

収穫終了後には、スコップで丁寧に根を掘り取り、ホモプシス根腐病(写真③参照)やネコブセンチュウなどの土壌病害虫の発生状況を確認し、来作の防除対策に活かしましょう。



写真③ ホモプシス根腐病

9月の分析経過について		合計7点
残留農薬分析点数	多成分一斉分析	
	サトイモ	1点
	ゴボウ	1点
	抑制トマト	3点
	抑制キュウリ	1点
	サラダ菜	1点

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 合計12点